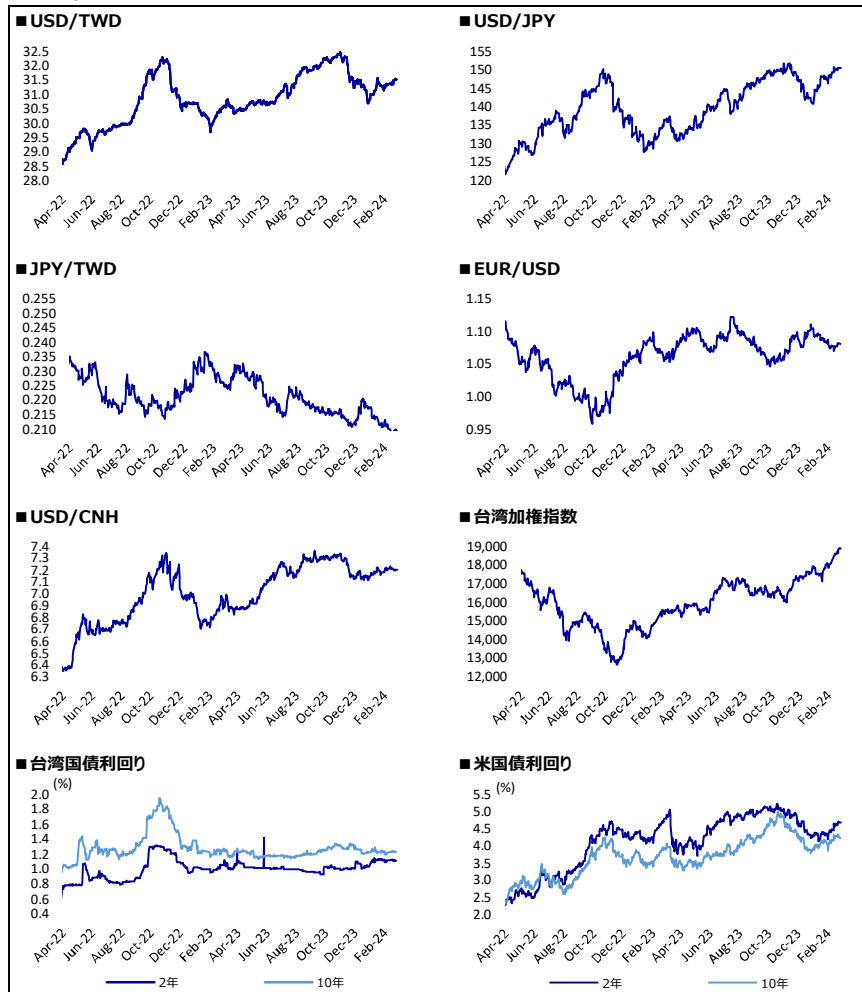


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。2/19は31.360でオープン後、ドル買いはやや優勢となるが、31.40近辺で輸出企業のドル売り注文もあったため、31.39～31.40の狭いレンジでもみ合い。2/20は海外投資のドル買い注文を中心にドル/台湾ドルは31.50台へ乗った。2/21、株式市場は安値圏で推移し、ドル/台湾ドルは31.50台半ばまで上昇。2/22、前日FOMC議事録にてタカ派の内容を受け、ドル/台湾ドルは31.555まで続伸。2/23、米エヌビディアの好決算を受けて台湾株が一時19,000を突破したものの、米早期利下げ観測が後退により、週間の高値31.580を付けた。最終的には前週比0.6%ドル高/台湾ドル安の31.555で先週の取引を終了。週間(2/19～23)の外国人投資家の株式買い越し額は292.16億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初2/19は150.14でオープン後、米国休場の中、下に往って来い。150円ちよどを挟むレンジで、総じて方向感に欠ける値動きとなった。20日、ドル/円は新規材料に欠ける中、150円台前半でじり高推移し、一時150.44円まで上昇。海外時間は、米金利低下や米株安に加えて、米1月景気先行指数の弱い結果も重しとなり、一時週安値の149.70円まで軟化した。その後150円台に戻したものの、上値重い推移となった。21日、海外時間は公表されたFOMC議事要旨(1月会合分)は、早期利下げへの慎重姿勢を崩さないややタカ派的な内容だったが、相場への影響は限定的となった。22日、日経平均株価指数は市場高値を更新していた他、米国雇用指標が予想を上回る結果となったことを受けて150円台半ばまで上昇した。23日は米国中銀高官より利下げを急がないスタンスが示される中、米金利の上昇を受けて150.77まで上昇。その後は上げ幅を縮小し、最終的には前週比0.2%ドル高円安の150.55で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.400-31.600
今週は上値の重い推移を見込む。堅調な米国株式市場の値動きにつられて台湾株価が底堅く推移する場合、台湾ドル需要も高まる他、月末にかけては輸出業者による外貨売りが想定されることから、台湾ドルは買われやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：149.00-152.00
今週は揉み合いの推移を予想する。足元の利下げ織り込みは6月FOMCで8割程度まで低下しており、一段の後ずれは期待されづらい中、ドル円は方向感に欠ける展開となるであろう。

今週の予定

2/26 (MON)	米1月新築住宅販売件数、日1月企業向けサービス価格指数、台湾1月輸出受注
2/27 (TUE)	米2月カンファレンスボード消費者信頼感指数、日1月消費者物価指数
2/28 (WED)	米10～12月期GDP(改定値)
2/29 (THU)	米1月個人所得/支出、米個人消費支出デフレーター、日1月小売売上高、台湾1月失業率、台湾1月鉱工業生産
3/1 (FRI)	米2月ISM製造業景気指数、日1月失業率

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。